

2 学年だより

夢の宅配便

2 年学年主任

水野 喜代治

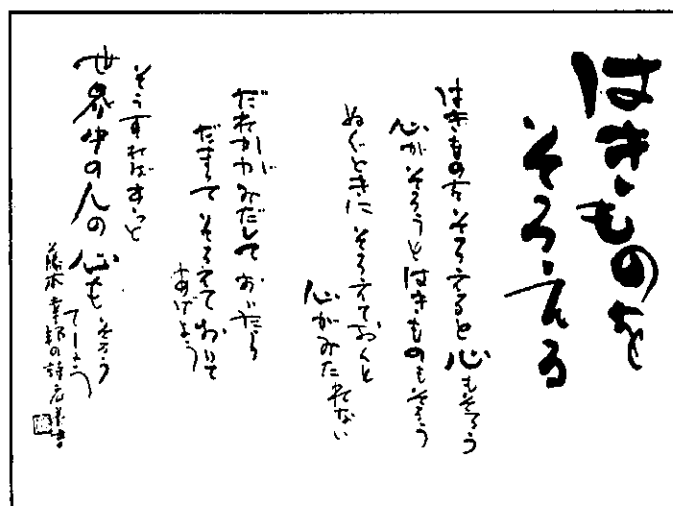
脚下照顧

城山中学校の昇降口に「はきものを揃える……」という詩が貼ってあります。だれが貼ったのかはわかりませんが、私が約30年前に城山中学校に赴任してきたときには、すでにトイレに貼ってありました。そう考えると、この詩は長い間、城山中学校に貼られていて、城山中学校の隠れ校訓のようなものだと思います。

昨日、この詩を書いた長野県の円福寺の藤本幸邦和尚さんに電話をしました。電話で話したところ幸邦和尚さんはお亡くなりになっていて、お寺を継いだ息子さんが電話の対応をしてくれました。「はきものを揃える」の詩のことをお聞きすると息子さんが丁寧に次のような説明をしてくださいました。

『父は、戦後（太平洋戦争の後）に、たくさんの戦争孤児を引き取りました。戦争によって、おとうさん、おかあさんを失った子どもたち、家も焼かれ住むところさえない子どもたち、そのような戦争の犠牲者となった子ども（孤児）たちを円福寺で引き取って育てました。そのとき、父は、戦争によって子どもたちの折れてすさんだ心を立て直すために、『はきものを揃えなさい。』ということ子どもたちに投げかけました。はきものを揃えることが自分の足下を見つめることになるという考えでした。この教えは仏教の「却下照顧」という教えです。父は、この教えを子どもたちにわかりやすく伝えるためにこの詩を書きました。城山中学校の取り組みとして「履き物を揃える」ことを行うのは素晴らしいことだと思います。』と激励の言葉をいただきました。

「却下照顧」を実践してみてください。「自分の足下をしっかりと見つめることで、自分を顧みることになる。自分をしっかりと見つめよう！」という教えです。靴を揃えることでいろいろなことに強い気持ちで取り組める自分に変えられると思います。



今日のそろっていない靴の数 (自分は靴を揃えたか振り返ってみよう！)

1 組 = 5 足

2 組 = 4 足

3 組 = 4 足

合計 13 足でした